

「青少年のスマホ・ネット問題の改善に向けたワークショップの実施」 (CAPおかやま)

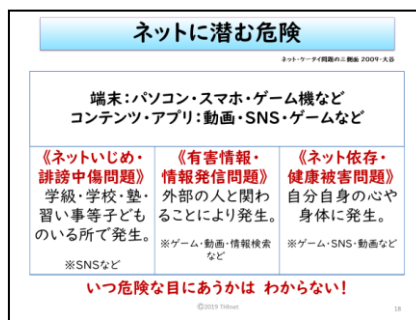
《テーマ・目的》

青少年のスマホ・ネットに関する問題は、ここ数年、いじめ等の人間関係のトラブルの原因となるだけでなく、普段は知り合えない「大人」と関わることによる有害情報との接触、健康被害・依存症の発症など、多岐にわたる。彼らが、こうした問題を学ぶ機会に恵まれず、被害や加害に関係してしまうことも増加している。

本事業では、彼らが陥りやすい課題「なぜ依存症になるまでやってしまうのか」を、社会問題として、あるいは思春期ならではの課題や、自分とネットとの関係を振り返ることで、青少年が自分自身の心身を大切に思い、「ネットコントロールしよう!」と自らネットコントロールしやすい環境の形成を目的とする。

《事業内容》

1. 「スマホ・ネットの課題や現在の日本での取り組みを学ぶ」
・8/17.18 ネット健康問題啓発者養成全国連絡協議会「公式インストラクター養成講習会」
倉吉市にて開催の講座に4名参加し、学びを深める。
2. 「スマホ・ネット問題の改善に向けたワークショップの作成」
・8/18.31.9/12.10/3.12.14.11/7.21.12/5.12.27.1/6.9
各種学校での実態や課題を聞きながら、より分かりやすく、行動変容が期待できるように改善。



3. 「スマホ・ネット問題の改善に向けたワークショップの実施」

- ・岡山市立御津中学校2学年(55名)
- ・玉野市立玉中学校全学年(157名)
- ・玉野市立日比中学校1学年(45名)
- ・岡山県立倉敷まきび支援学校高等部(80名)



《成果・効果》

生徒337名、教職員・保護者の参加も多数得て開催することができた。

何が課題か、なぜやめることができなくなるのか、個人の課題・社会の課題(企業側の狙いや子どもたちが暮らす環境等)について、我が事として考えることができたようだった。

また、おとなは、おとなの責任や役割、子どもにだけ責任を押し付けるのではなく、スマホ・ネットとどう関わっていくかを再考する機会となった。

《評価》

受講後、生徒・教職員にアンケートを実施した。

A:よくわかった B:大体わかった C:あまり分からなかった D:全く分からなかった

生徒	A	B	C	D
ネットの何が危険なのか!	167	58	2	0
なぜ、はまってしまう?	156	64	6	1
今と未来に向けて…	131	70	21	5
合計	454	192	29	6

教職員	A	B	C	D
児童生徒の実態に沿ったものでしたか?	12	4	2	0

多くの生徒・教職員がよくわかった・大体わかったと答えているが、自由記述には、「それでもやめられない。」「おとなは口だけでなく手本となる姿を見せなければならない。」「早い時期…幼児・児童期からの親を含めた啓発が必要。中学生ではもう遅い感がある。」等の課題も挙がっている。

《今後の改善点》

内容的には、高評価を得た事業だったが、メディア関連の技術や内容は日進月歩で進み、ゲーム依存は、人類史上初の低年齢から発症する依存症とされ、治療や回復の道筋も今だ確立していない。まして、予防啓発の取り組みは出遅れた感がある。新しい情報を得ながら、対応策を考え、今後も時代に合ったプログラムとなるよう、継続的な開発・改善が必要であると考えている。

また、生徒・教職員の両方から記述のあった‘おとなの姿勢’の変容促進には、おとなへの教育が喫緊の課題である。さらに低年齢者を含めた全ての人への段階的な「啓発」の取り組みが急がれる。いずれにしても、現在のスマホ・ネットの課題は、未知の分野であると同時に、少しでも早い適切な対応が求められている。次年度は、本プログラムの更なる改良と親を含めたおとなへの発信により、スマホ問題への予防啓発に努めていきたい。